



持続可能型社会でのプラスチック製品

ワークショップ①: MOSS CUBE

－キューブのなかのちっさな自然をそだてよう－

弊社はプラスチック製品製造メーカーとして、持続可能型社会における「プラスチックの使いどころ」を考えています。

では、プラスチックの使いどころはどこにあるのでしょうか？

持続可能型社会の実現へ向けてプラスチックの廃棄率を減らし、リサイクルにつなげる取り組みが必要な一方で、リサイクル品ではないプラスチック製品にできることもあります。

例えば、プラスチックケースはガラス製品にくらべて軽く、割れにくいので輸送時のCO2排出量を削減でき、梱包資材も少なくてすむというメリットがあります。

そして、軽く割れにくいプラスチックケースならオフィスのPC周りなんかにも安心して飾れます。

しかし、ガラス製品を代替するほどクリアなプラスチックケースは、現在リサイクル樹脂で実現することは困難なのです。

MOSS CUBE は・・・

机の上の癒しとなるような苔をクリアなケースで鑑賞しながら、リサイクル資材や環境を考慮した素材を選定して組み合わせることにより、持続可能型社会におけるプラスチックの立ち位置を考えるきっかけになることを目指しています。

ケース：弊社では厳しい基準で検品していますのでどうしても製品ロスがでてしまいます。例えば、コレクションの展示などミノルキューブ®本来の用途を考えると微細なキズでも検品に通らないのです。そこで、私たちは、MOSS CUBE用に新たな検品基準(キズの位置や植物育成用途であれば問題ない程度)を設けることで製品ロスを減らすことにチャレンジします。

インナートレイ：植物デンプン由来のプラスチックを使用することで持続可能な生産形態をめざしています。

化粧砂：色付廃ガラスピンを破碎エッジレス加工したものを、水場を表現する資材に使用しています。色付ガラスでコケリウムを鮮やかにしながら、リサイクルがむずかしい色付廃ガラスピンの廃材資材利用促進に寄与することをめざします。

培地：自動車シート材の端切れなどを再利用したポリエステル繊維培地を使用することで廃棄物削減をめざします。

小分け包装：プラスチック製品の製造では製品と製品の間にキズ防止のための薄い紙(間紙、合紙)を挟み込みます。MOSS CUBEのキットでは、水濡れのない資材の小分けにケース製造時に使用した間紙をカットして再利用しています。